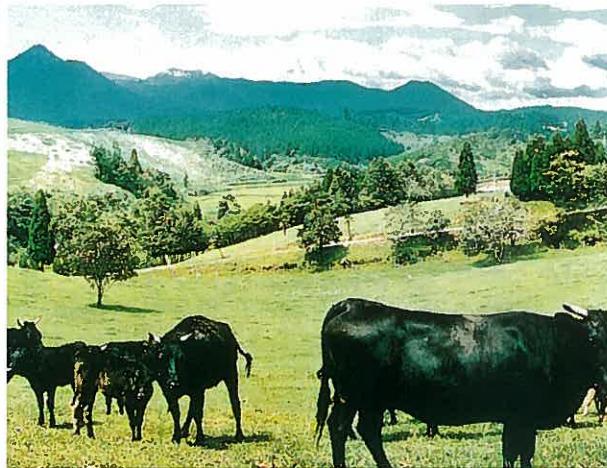


世界に翔く宮崎牛

1997年2月号

No.17



(左) ポスターで宮崎産牛肉をPR!



(右上) 世界に翔け、宮崎牛！

(右下) 県内各地で食肉衛生研修会が開催される
(関連記事8ページ)

2月号目次

畜産情勢（研修体験日記）	2	肉用牛産肉能力検定情報	8
特別レポート（技術情報）	3	一般放談	9
今月の飼育管理ポイント	4	参考資料	10
おたずねします	5	消費地情報	10
トピックス	6	今後の行事計画	12

畜産情勢

高見牧場研修体験日記

三股町蓼池3410-1

福 永 透

気候の厳しい兵庫の山あいで約1000頭の但馬牛を育てる高見牧場。

丹波の名水に加え安全、効率の良い独自の配合で飼育している。3ヶ所の牧場を受持ち肥育、繁殖の一貫経営、そして直営レストラン、精肉店と人の口に入るまでの経営もしている。

私は幼い頃から、牛にふれあい牛を見てきた。共進会、枝肉格付けなど父の後をついて行き、その頃から興味を持ち始めた。高校も畜産科を選択した。卒業後もより一層の牛の勉強がしたかったため、両親と話し合ったうえ、地区の技術員、父の友人の紹介により高見牧場へ就職した。

仕事の内容としては堆肥出し、週2回のノコクズ取り、他の牧場への手伝い、ヘルパー、環境整備、削蹄が主。削蹄では指導者の教えを頂きロープ1本で切れるようになった。

私は繁殖、肥育育成の担当をしていた。

繁殖では、親牛40頭、仔牛年約35頭出産している。1年1年を目標とし、流産やけんかを防止するため除角してあり、人工受精と自然交配をしている。また、子牛には母乳制限、下痢、肺炎の事故防止に気を配っている。

肥育育成は、なるべく腹を冷やさないように牛床は清潔に保ち育成の段階で骨格、消化器を作るために粗飼料を重視した飼料を追加給与し、15日ごとに飼料を增量していく。

鉱塩、ソフトシリカも忘れず給与する。

導入素牛は都城産7割と地元氷上郡産3割。都城産の場合は毎月導入、素牛の低価格コストの低減、枝肉重視、氷上郡産は2ヶ月に1回導入、血統重視、肉質、枝肉価格も安定、しかし素牛高価格、枝肉重量が県平均して軽い。都城産は主に京都出荷、氷上郡産は東京出荷どちらも約22ヶ月飼育する。

平成7年1月17日阪神大震災が起きた。丹波地方は震度5ぐらいだったが精肉店、レストランの売り上げが減少し、牧場はすべて購入飼料、配送がうまくいかず神戸への出荷中止など大きな被害を受けた。

出荷時に牛が揃うように額に「モオーやらん」という板状の物を付け導入直後に血統、性別発育不良牛などの問題がある牛以外は全頭つける。2ヶ月に1回点検、約6ヶ月間程付け出荷4ヶ月前に付ける、そうすると、あたり防止、メスの密飼いが出来るなどいろいろな方法を取り入れている。

異常牛の発見、隔離、早期治療に努める事はよい肉牛を作る秘訣だと思う。

長いようで、今思うと短い期間の中でいろいろな事を学んだ。牛には少しほんわかっていたつもりだったが、牛の見方（繁殖に使いやすい牛、肉質タイプ向きの牛）、病気の見分け方（腸間膜脂肪壊死、肺炎、コクシジューム）など知らない事が多すぎて怒られることもしばしばあった。

社長を始めレストランの方々、牧場の方々に大変お世話になった。遠く離れた知らない土地に来て多くの人が私を支えてくれた。

不安と初めての寮生活、自炊、洗濯、身の廻りの事、とまどうことが当初多かった。

両親と一緒にいると、つい甘えてしまい、うつとうしいと思う時があるがいざ寮生活をしてみると親のありがたさ電話での一言一言の励ましがうれしかった。オイルショック当時、両親は借金を背負い苦労し、こつこつと自己資金を増やし平成元年には自己

資金牛100%にしている両親を持ち誇りに思う。父を越えたい。将来、肥育牛300頭、一貫経営、レストランなどもやってみたい。

これからの肉用牛経営はかなり厳しい情勢になってくるだろう。世界の舌を魅了する和牛が外国産牛肉に負ける筈がない。私は一生、牛を飼い続けたい。牛は可愛い。牛は生きている命が短い。そのためにも愛情を持ち注ぎ込むことがなによりの償いだと思う。

若いキャリアのない私にとって失敗は当たり前。失敗に失敗を重ねそれを克服し、それを明日へ繋げたい。

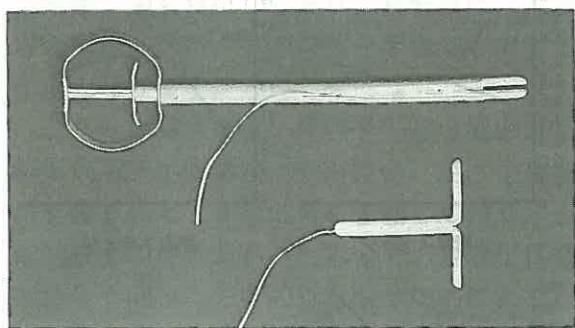
私にとって丹波は第二の故郷、この研修で培った日々、これから的人生、原石が光輝く宝になる日がきっと来るだろう。

特別レポート（技術情報）

黄体ホルモン製剤 (CIDR) を利用した牛の採卵

受精卵移植技術では、過剰排卵処理によって1頭の牛から、いかに多くの受精卵を効率よく採卵するかが重要な課題となっている。

牛の受精卵移植普及定着化事業（7県共同試験）の一環として宮崎県畜産試験場では、腔内挿入型の黄体ホルモン製剤 (CIDR) を用いて短期間に連続して過剰排卵処理を実施し、効率的な採卵について検討している。



その方法は、まず、CIDR（写真上）を専用のアプリケーター（写真右上）を用い性周期に関係なく牛の臍内に挿入する。

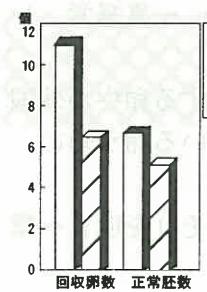
挿入後10日目から過剰排卵処理を開始し、12日目に除去して発情を起こして、人工受精



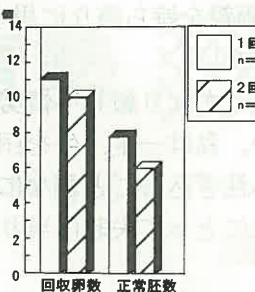
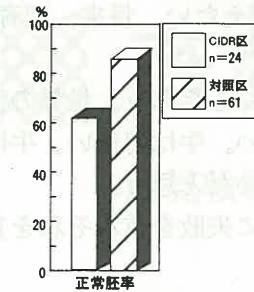
後7日に採卵する。

CIDRを使って採卵した場合でも1回当たりの成績は従来の方法とほぼ同等であり、また、CIDRを使って35日間隔で2回目連続して採卵したときの1回目と2回目の成績を比較しても安定した成績が得られる。

通常に採卵は1頭当たり年間4回程度であるが、この方法が実用化されれば性周期に関係なく短期間に繰返し過剰排卵処理できることで、年間の採卵回数や採卵個数を増やしより効率的な採卵が可能となることが期待される。



CIDRによる過剰排卵処理



CIDRによる2回連続過剰排卵処理成績

今月の飼養管理ポイント

-血液検査ポイント-

今回は、肥育状態の指標を中心に、低事故で比較的枝肉成績の良好な5農家で飼養されている牛の血液検査結果を紹介します。

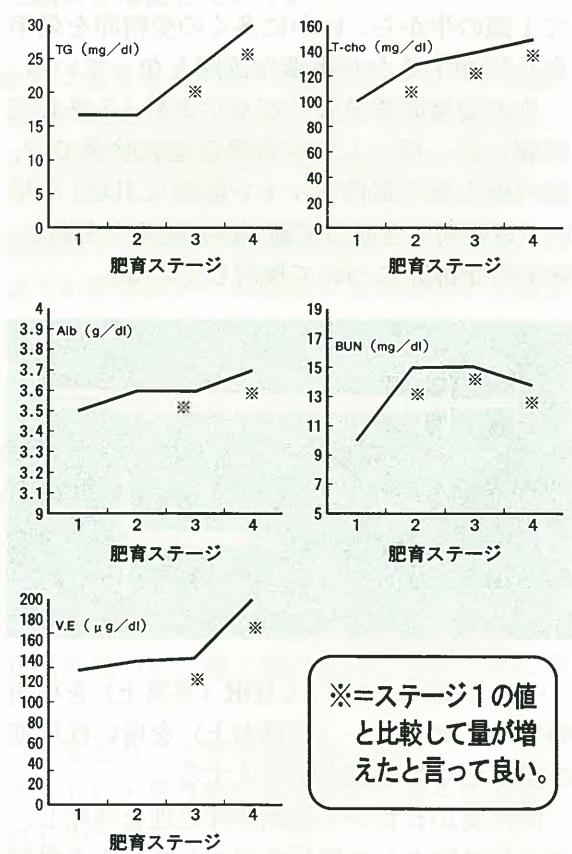
血液中の中性脂肪（TG）量は肥育が進み脂肪が蓄積されると増え、また、枝肉成績の良好な牛の血液中の総コレステロール（T-cho）量は多いです。血液中のアルブミン（Alb）量と血液中尿素窒素（BUN）量は、それぞれ、長期間及び短期間のタンパク質（または飼料）摂取の指標になります。

肥育ステージを導入後月数で、4つに分けて調べたところ、図のようになります。ステージ1、2、3及び4は、それぞれ、導入後0～4、5～10、11～14及び15～20月を表し、頭数は、30、24、28及び19頭です。各値は平均値で示し、はじめのステージ、つまり、ステージ1の値との有意差（二つの平均値間に単純な差があるても、統計的な処理によってその差が本当に差と呼べるのかを調べる必要があります。統計的に見て差といえるものと有意差と呼びます）も調べました。

血液中のTG、T-cho、Alb及びBUN量は肥育後期に有意に（ステージ1の値との間に差があるといつて良い）増え、加えて、血液中のT-cho量とAlb量、T-cho量とBUN量との間に有意な相関がありました。（血液中

のAlb量とBUN量が増えるとT-cho量も増えました）。以上の結果から、今回調べた農家

図



の牛は充分量の飼料を目立った食い止まりなく継続的に摂取し、肥育が順調に進んでいると考えられます。また、充分量の飼料を食い止まりなく継続的に摂取した牛の血液中のT-cho量は多くなることが示唆されます。血液中のBUN量は最終ステージで平均値が落ちていますので、肥育の仕上げ期には全体的に食下量が減少傾向にあるようです。（ただし、統計学的に見ると食下量は落ちているとは言えません）。

ビタミンEは肉色や解体後の品質保持に重要で、今回、肥育の指標である血液中のT-cho量との関係を調べたところ有意な相関（血液中

のビタミンE量が増えるとT-cho量も増えました）が認められました。このことから、血液中のビタミンE量は、T-cho量と同様に肥育状態の指標になる可能性があります。

枝肉成績が極めて良好な個体の肥育仕上げ期における血液中のT-cho量とBUN量は、図の平均値よりもっと多いようです。

各農家で、それぞれの検査項目の推移を調べ、増体と枝肉成績が良好になるためのガイドラインを決めておけば、肥育の問題点を発見しやすくなります。

○おたずねします○

肉用子牛生産者補給金制度に加入していますが、積立金（負担金）の仕組みについて教えて下さい。

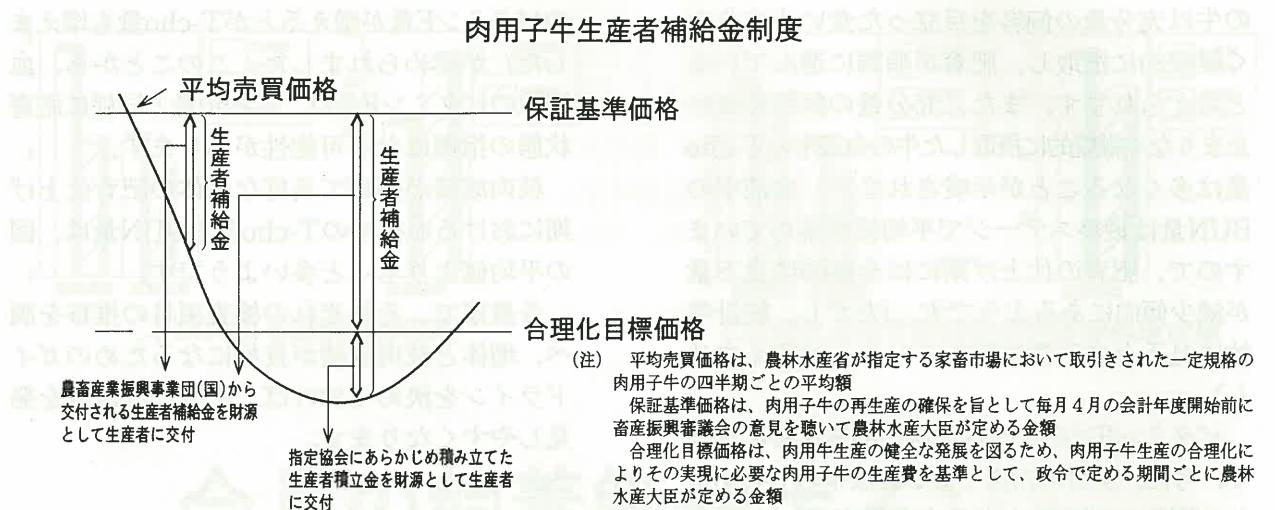
肉用子牛生産者補給金制度加入している人は、子牛を登録する度に補給金の発動に備えて積立金（保険という掛け金）を納付しなければなりません。これは、生産者だけではなく、宮崎県、国も負担しており、宮崎県は、生産者と同額、国は、その倍額を手当していることになります。

こうした積立金は、県の子牛基金協会（宮崎県肉用子牛価格安定基金協会）が、生産者の登録された子牛毎に全て管理しており、もし補給金の発動があった場合で、合理化目標価格を下回った分の90%を賄うためにあてられます。なお、保証基準価格と合理化目標価格の間で発動があった場合は、積立金は使うことなく、全て国が補填することになります。

一方、補給金の発動状況は、本紙でも照会がありますが、黒毛和種については、平成2年の制度発足以来平成6年に2回だけ発動が

ありましたが、いづれも合理化目標価格を下回ることがなく、積立金を使うことなく補給金の交付がさなされています。したがってこれまでに登録された子牛の積立金は、すべて残っていることになります。また、平成2年以降継続契約されている生産者の方のほとんどは、これまでの積立金で造成された準備金（貯金と思ってください）を取崩して積立金にあてますので、生産者の方の実費の負担はほとんどない状況となっています。

このように、現在の子牛価格が全国的に堅調に推移しており、補給金の発動がない状況ですが、今後、いかなる子牛価格の低落があった場合でも、安心して繁殖経営の安定的維持ができるように、生産者、県、国が、がっちり手を組んで日本の肉用牛を育てているわけです。



トピックス

平成9年度の政府予算案決まる
農林関係予算は3兆5,922億円
肉用子牛等対策は1,266億円に増額

平成9年度政府予算案が12月25日に閣議決定されました。

農林水産関係予算は3兆5,922億円（対前年度比0.1%減）とほぼ横ばいとなっています。

このうち、ウルグアイ・ラウンド農業関連対策費は993億円が認められ、8年度補正の3,100億円を含めると、3年度目の対策費は国費で4,093億円（事業費では9,300億円）が確保されることになります。

肉用牛関係では、肉用子牛等対策費（肉用子牛生産者補給金の交付等）が前年度の1,216億円から、1,266億円に増額されました。

また、流通飼料対策では、配合飼料価格安定対策事業（配合飼料価格の大幅な上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するための異常補てん財源の積増し）として38億円、飼料穀物の輸入・備蓄を行うための輸入飼料勘定への繰入れ額として40億円が確保されました。その他畜産関係の主な新規・拡充施策等は以

下の通りです。

ア、地域畜産就農円滑化条件整備

493百万円

経営の継続が困難な農家が有する農用地、施設等を活用し、農家子弟や新規参入による新規就農者に営農実践の場を提供するほか、新規就農者が確保されるまでの間の保全管理を行うことにより、円滑な就農を支援する。さらに、離農跡地の農用地、施設等を活用し、農場の継承と新規就農者の促進を図る。

イ、広域畜産リサイクルセンター整備対策

1,775百万円

家畜が濃密に飼養されている地域において効率的な家畜排せつ物処理システムを構築するため、基幹堆肥施設と事前に水分調整等を行う予備調整施設からなる広域畜産リサイクルセンターを整備するとともに、高品質な堆きゅう肥の生産技術の習得等の集団活動を行う。

ウ、地域畜産環境保全プラント整備対策

914百万円

畜産経営における家畜排せつ物の適切な処理及び耕種経営との連携による堆きゅう肥の利用を推進するため、小規模な家畜排せつ物処理利用施設の整備を行う。

エ、食肉処理総合品質管理体制整備指導事業

20百万円

国産食肉の高品質化を図るために、食肉処理施設における衛生・品質管理の実態を調査し、統一的・客観的な品質管理モデルを策定するとともに、その導入を促進することにより、処理段階における高品質で安全な食肉の生産体制の確立と高品質管理コストの低減を図る。

オ、肉用牛改良効率向上推進対策事業

578百万円

肉用牛の育種改良の一層の精度向上を図るために、後代検定におけるステーション（試験場）・フィールド（農家）併用方式の導入やきょうだい検定の組込等により育種システムを改善し、もって優良な肉用種雄牛の作出等を推進する。

カ、肉用牛高度肥育技術確立事業

578百万円

肉用牛の育種改良の一層の精度向上を図るために、後代検定におけるステーション（試験場）・フィールド（農家）併用方式の導入やきょうだい検定の組込等により育種システムを改善し、もって優良な肉用種雄牛の作出等を推進する。

と畜場法施行規則を改正

厚生省は12月25日、と畜場法施行規則（厚生省令）の改正を公布しました。

これは、病原性大腸菌O-157による食中毒の防止など衛生管理を義務付けたもので、今年の4月1日から施行されます。

今回の改正では、と畜場設置（管理）者とと畜業者が衛生管理マニュアルを作成、適切に行われていることを確認するため衛生管理

65百万円

肉用牛生産の低コスト化と高品質化を促進するため、一卵性双子（クローン）を利用した共同試験の実施等により、雄牛肥育の効率化や出荷適期判定等の技術を確立する。

キ、地域ぐるみ飼料生産システム確立対策

153百万円

地域の畜産農家と耕種農家が一体となって、既耕地における作付体系への飼料作物の導入・水田裏の活用等による飼料作物の作付拡大、稲わら利用、堆肥還元等を取り入れた協定を締結し、地域ぐるみで生産性の高い飼料生産システムを確立する。

ク、経営効率化機械緊急整備リース事業

150百万円

ウルグアイ・ラウンド合意に伴う国際環境の変化に対応し、ゆとりをもてる、質の高い経営の実現に向け一層のコスト低減と経営体质の強化を図るために、効率的生産に必要な飼養管理関連機械（自動給餌機、自動サイレージ運搬機器等）をリース方式（リース料の一部を助成）により緊急に整備する。

責任者、作業衛生責任者の設置を義務付けています。また、直腸・食道結さつ、手指の洗浄、軍手の不使用、ナイフ等機械器具の摂氏83℃以上の温湯による消毒など機器消毒施設の整備が求められています。（ただし、実施に当たってはそれぞれ猶予期間が設定されています。）

1～3月期の配合飼料価格は2,000円／トンの値下げ

JA全農は12月18日、9年1～3月期の配合飼料価格を8年10～12月期に比べ1トン当たり約2,000円（全国全畜種平均）値下げすると発表しました。

これは、為替相場が円安となっているものの、配合飼料の主原料となるトウモロコシのアメリカ・シカゴ相場が下落基調となっており、大豆ミールなどの副原料も軟調となって

いるため、値下げは2・四半期連続となります。ただし、今回の値下げに伴い、配合飼料価格安定制度に基づく農家への補てん額が1ト

1月～3月期和牛枝肉価格差補てん基準価格を1,700円に改訂

徳宮崎県肉用牛枝肉価格安定基金協会は、平成9年1月17日の理事会で平成9年1月～3月期の和牛枝肉価格差補てん基準価格を経済連和牛枝肉規格A4-2の価格1kg当たり1,650円から1,700円へ改訂することを決定しました。これは、素牛の高騰が依然として続いている、農家の肥育経営への悪影響を勘案し、基準価格の改訂を行ったものです。

食品衛生は、今、大きく変わる

病原性大腸菌O-157に揺れた平成8年は過ぎたものの、この問題は、我が国の食品衛生管理に警鐘を打ち鳴らした。アメリカでは、宇宙食を製造するために開発された、HACCP(危害分析重要管理点)方式を導入し高品質の食肉製造を行っている。我が国は、立ち遅れた感じはあるものの、平成7年5月に食品衛生法を改正し、国内の衛生基準と国際基準の整合性を図ることになった。一方、平成7年7月からPL法(製造物責任法)が施行され、消

ン当たり約2,000円の減額となることから、契約農家の実質負担額は前期(8年10～12月期)並びに据え置かれることとなります。

なお、1月～3月期の経済連和牛枝肉規格A4-2の平均価格が1,700円を下回った場合は、同協会より価格差補てん金の交付が発動されます。

同協会では、県内肥育農家の経営の安定と「宮崎牛」銘柄確立にむけての安定基金未加入農家の加入を推進しておりますので、もよろしくお問い合わせください。

○ 肉用牛産肉能力検定情報 ○

1. 直接検定終了時成績

平成8年度中期に直接検定を受験した7頭のうちから、下表の3頭が種雄牛候補として選抜されました。

この3頭については、今後さらに育成期間を経て、間接検定を受験するための最終選抜が行われることになっています。

名号	血統		産地	体重(kg)	体高(cm)	D·C(kg)	365日令補正体重	体型得点	備考
	父	母の父							
北文安	糸弘2	糸秀	小林市	407	123.2	1.29	427.6	82.1	保留
隆平茂	誠隆	第20平茂	都城市	359	119.2	1.17	404.6	81.3	保留
福福桜	隆桜	安福	高原町	413	125.2	1.12	411.9	82.7	保留

2. 間接検定中間成績

年度	検定牛名	父	母の父	产地	検定終了日	枝肉調査	月令	平均体重	平均DG
H7	安美	安平	安福	宮崎市	H9. 1.11	H9. 1.16	19	587.1	0.95
	茂秀	第20平茂	糸秀	高原町	H9. 1.17	H9. 1.22	18	588.1	1.04
	糸満	糸弘2	隆美	串間市	H9. 2. 7	H9. 2.12	18	575.4	0.99
	糸隆安	糸弘2	隆美	都城市	H9. 2.14	H9. 2.19	17	572.9	1.04
	第6糸秀	秀安	第7糸桜	畜試	H9. 2.27	H9. 3. 5	16	528.4	1.00
H8	鶴雪	第2安鶴土井	安幸土井	兵庫県	H9. 5.30	H9. 6. 4	15	456.6	0.98
	武晴	糸晴	秀安	東郷町	H9.12.12	H9.12.17	8	258.2	-
	茂福	安平	福茂	高原町	H9.12.19	H9.12.24	8	271.2	-
	糸安	菊安	糸秀	小林市	予備飼育中 H9. 1.10		検定開始予定 H9. 1.17		
	菊平福	菊安	福	佐土原町					



朝立ち巨根

辞書によると、朝立ちとは、朝早く旅などに出ること、とある。

されば辞書にもない朝立ちとは一体何物であろうか、自我流に説明を加えるならば、それは男性独特の現象であり、朝の目覚め時にはすでに出現している怪物的存在のものであると解されよう。

そしてこの怪物には二つの特色がある、その一つは青春期をピークに年令の増加とともにだんだんと出現率が低下するようになることである。

「朝立ちのない者には金を貸すな」と昔から

言われているとおり、朝立ちは男の能力(活動力、健康度)を評価するために参考に用いられたほど重要な存在のものであったようだ。

更にもう一つの特色は長続きしない、ということである。

朝立ちは、ただ漫然と怪巨ぶりを見せるので俗に「馬鹿〇〇」とも呼ばれており、他意もないので長続きもせず消失も早いのである。「朝立ちや小便までの寿命かな」とはよくもその動態をとらえたものだ、参った参った。

(こって牛)

○ 消費地情報 ○

**市場価格変動が平準化
本県市場占有率 11.6%**

[市場概況]

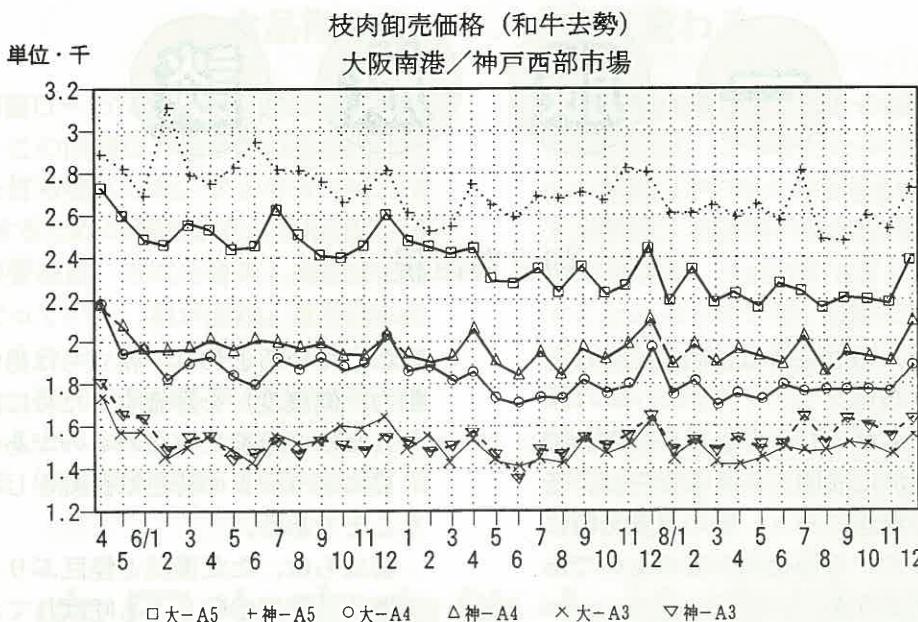
関西地区・主要中央卸売市場における枝肉卸売価格の過去 3 カ月における推移は下記のとおりとなつた。

8 年相場の特徴は、BSE (3 月～)、O-157 (7 月～) の影響で例年のような下記相場の上昇もなく、ようやく年末になって、前年並みの展開となつた。

ただ、4、3 等級の枝肉卸売価格は、5 等級の単価不振と比較して比較的安定した価格帯での推移となつた。

◆ 中央卸売市場での枝肉卸売価格推移 (和牛去勢) は図 1 のとおり。

[図 1]

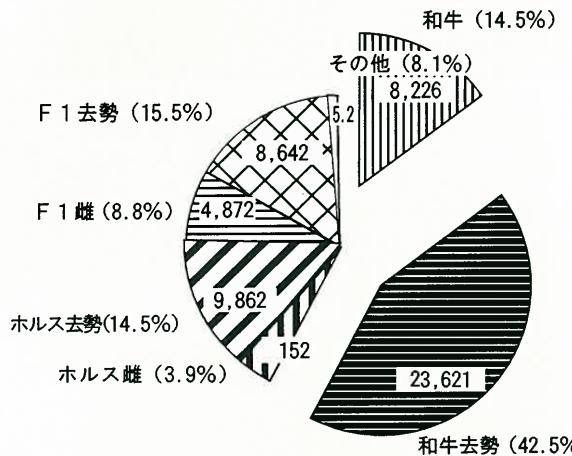


◆ [JA 宮崎経済連の成績]

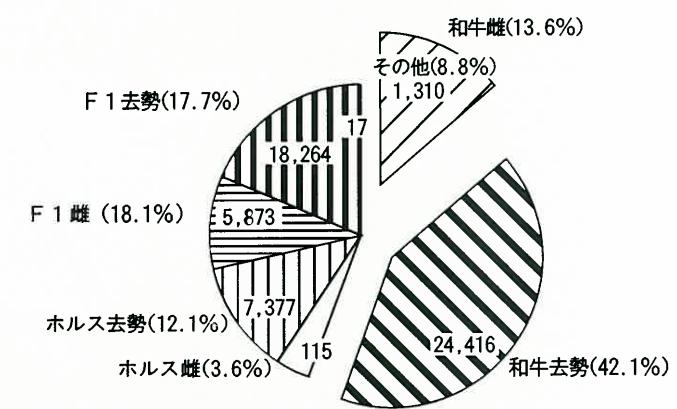
(8年)	A 5	A 4	A 3	(5率)	(4率)	(3率)
和牛去勢	2,270	1,801	1,503	27.9	42.8	25.3
市場平均	2,264	1,778	1,503	23.0	36.8	30.5
(7年)						
和牛去勢	2,340	1,824	1,514	28.2	39.3	23.6
市場平均	2,363	1,809	1,502	24.0	33.0	27.0

◆ 大阪南港市場での出荷状況は下記のとおり。

大阪南港市場
8 年 品種別出荷割合 56,627 頭



大阪南港市場
7 年 品種別出荷割合 57,972 頭



産 地	和 牛 雌	(前年増減)	和 牛 去 勢	(前年比較)	計	(前年比較)
佐賀	426	▲ 53	5,062	122	5,488	69
鹿児島	1,737	112	3,563	▲ 614	5,300	▲ 502
宮崎	819	32	2,883	▲ 785	3,702	▲ 753
長野	545	21	1,708	288	2,253	309
大分	469	▲ 76	1,582	▲ 405	2,082	▲ 481
熊本	659	137	1,329	135	2,024	272
鳥取	536	59	1,350	▲ 92	1,888	▲ 31
徳島	634	▲ 113	578	▲ 83	1,213	▲ 195
福岡	183	81	970	290	1,153	371
島根	161	56	946	34	1,107	90
山口	220	80	882	▲ 35	1,102	▲ 45
愛知	262	23	612	86	874	109
その他の	1,539		2,156		3,648	
計	8,226		23,621		31,852	▲ 474

◆ [JA 宮崎経済連の成績]

	7 年	8 年	対 比 (%)
和牛雌	330 頭	318 頭	96.4%
和牛去勢	3,396 頭 (5 頭)	2,551 頭 (5 頭)	75.1%
その他	48		
計	3,779 頭	2,874 頭	76.1%
産地統計	4,528 頭	3,702 頭	81.2%
系統率	83.5%	77.6%	92.9%

今後の行事計画

平成9年子牛セリ市開設日程（その一）

	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
四 行 事 月 事																															

都城
2,012

小林
1,700

黒毛和種成雌牛登録検査日程

	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
四 行 事 月 事																															

安心、安全、鮮度の良さがうまさの証！

－新鮮、安心な宮崎産牛肉をPR－

このポスター、もうご覧になりましたか。

これは、病原性大腸菌O-157による食中毒の発生等によって食品に対する消費者の衛生意識が高まっているなかで、広く消費者の方々を対象に宮崎産牛肉、豚肉の安全性についての理解を求めるとともに、食肉消費の促

進を図るため、農畜産業振興事業団の助成を受け、宮崎県畜産会が作成したものです。

1／1～3／31まで、宮崎市内を走る宮崎交通バス90台で社内掲載されるほか、県内外の食肉販売店等にも配布されています。

(表紙：写真説明)